

令和4年度 特別の教育課程の実施状況等について

高知市立第四小学校

1 特別の教育課程の内容

(1) 概要

- ・小学校1年においては生活科の時間を34時間削減して外国語活動にあてる。
- ・小学校2年においては生活科の時間を35時間削減して外国語活動にあてる。
- ・小学校3・4年は総合的な学習の時間を35時間削減して外国語活動にあてる。

(2) 学校又は地域の特色を生かした特別の教育課程を編成して教育を実施する必要性

第四小学校は平成16年度から、国の構造改革推進政策による高知市の国際理解教育推進特区の許可により、外国語活動を全学年で実施してきた。当時は小学校での教科として外国語活動を実施するのは全国でも珍しく、外国語指導員とともに全教職員が外国語活動の流れをつくり取り組んできた。本校が積み上げてきた実践を生かすためにも、特色を生かした特別な教育課程の編成を基に研究を継続させ発展させていく必要があると考える。

2 高知市立第四小学校の取組

【1年生の授業】

1年生の授業では、『ALTの先生におすすめサラダを作ろう』という学習に取り組みました。国語の授業で学習した”サラダでげんき”のお話を使って、簡単なやりとりを行いました。くり返しが多いので、外国語を学習し始めた1年生も楽しんで活動することができました。子どもたちは自分で決めた役になりきって、ALTの先生におすすめしたいサラダの食材を紹介し合いました。



【2年生の授業】

2年生の授業では、『What time? 何時ですか?』の学習を行いました。ALTの先生が読み聞かせをしてくれる中で、繰り返し聞いたり発音をしたりしてセンテンスにも慣れるようにしました。低学年では、楽しくやりとりができるように授業の内容を考え、友だちとコミュニケーションをとる活動を大切にしています。



【3年生の授業】

3年生の授業では、クラスみんながお互いのことを知り合い、もっと仲良くなるために『友だちにインタビューをしよう』という活動をしました。インタビューをしていくなかで、「〇〇さんはこんなアニメが好きなんだね!」「知らなかったことが知れたよ!」という感想をもつとともに、「もっと知りたい。」とどんどんやりとりをする姿が見られました。またタブレットを用いて、自分の言いたいことを表現することができていました。



【4年生の授業】

4年生の授業では、社会科の防災の学習に関連付けて、『防災バッグを作ろう!』の学習をしました。高知に来たばかりのALTにおすすめの防災バッグの中身を紹介しました。中間指導では言いたかったことを確認し、みんなでどう言ったらいいかを考えました。相手に配慮しながら、おすすめをする理由などを一所懸命に話すなど、子どもたちが意欲的に活動する姿が見られました。



【5年生の授業】

5年生の授業では、『Where is the post office? ~龍馬の生まれた町を紹介しよう~』という学習をしました。校区のおすすめスポットをALTに紹介することをゴールにしました。紹介を聞いたALTからの質問に答えるのは緊張しましたが、身振り手振りも使って、楽しく伝えることができました。



【6年生の授業】

6年生は、『My future, my dream.』の学習で、校区の中学校から届いたビデオメッセージに、自分の夢などについて語るスピーチを返事として送ろうという学習をしました。今までに習った外国語のフレーズや単語を使って、自分の夢や入りたい部活動について友だちと話す中で、「もっとこんなことを伝えたい。」ということがたくさん出てきて、話す内容の幅がぐんと広がる学習となりました。



【こぼと学級の授業】

こぼと学級の授業では、自己紹介から発展させて、名前だけでなく好きな食べ物を紹介し合って、コミュニケーションを深めました。ゲームなどで楽しく学習してから、子どもたちは、自分の名刺カードも使ってジェスチャーをつけて、たくさんの先生とやりとりを楽しむ様子が見られました。



3 成果と課題

(1) 成果

授業の流れを“第四スタンダード”として教員で共通理解を図り、学校全体で同じ流れの授業を行うことで、6年間を通して、系統的な授業を行うことができている。特に、外国語に苦手意識がある児童にとっては、無理なく学習に取り組められているように思う。

また、新型コロナウイルス感染症のため、思うように活動ができないこともあったが、中間評価で言いたかったけれど言えなかったことをみんなで考えたり、1時間ごとにやりとりの内容を増やしていったりすることで、子どもたちが言語活動を無理なく、楽しみながら活動する姿が見られた。即興的なやりとりを授業で多く行うようにしたり子どもたちが話したいと思う場面づくりを意識したりしたことがよかったと思う。

(2) 児童へのアンケートより

◆外国語の授業が楽しいと思っている児童が約9割おり、児童は意欲的に取り組んでいることが分かる。ただ、学年が上がるにつれて、意欲が低下する傾向がみられるので、高学年になっても興味がわく、授業づくりを行っていく必要を感じる。

◆「進んで外国語を話すことができている」の項目が一番、低い結果となった。楽しく活動を行っているが、外国語を話すことに抵抗もみられる。友だちとのコミュニケーションやALTとのかかわりを多く設定した授業を行い、人とのコミュニケーションを大事にした授業づくりを行っていきたい。

(3) 保護者・外部学校関係者からの感想

ア 保護者より

・ALTの先生が身近な存在としていてくださり、授業だけでなく学校生活で自然に外国語にふれることができ、家でも自然と外国語を話すことがあります。

イ 学校関係者からの感想

・ALTの先生の存在等で、楽しく本物の外国語に触れることができている。また、低学年から外国語活動を行っていることで、外国語を話したり聞いたりすることへの抵抗が少なく、子どもたちに免疫ができていると感じる。

・今までのような外国語を覚えて発表するような形式ではなく、自分が言いたいと思うことを話すような場面設定が大切になってくると思う。相手意識をもって、既習の外国語を駆使して話す子どもが育つようにしていくといいのではないかと。

(4) 課題

子どもが外国語を使いたい・話したいと思える授業をつくっていくことが求められているが、目的・状況・状況をどう設定するかなど、担任の授業力が大きくかかわっている。教員の力も必要かもしれないが、何より“この単元の終わりに子どもたちにはどんな力がついて欲しいのか”という教師のビジョンが必要だと思った。児童が「外国語を学ぶことが楽しい!」「外国語を話すことが好き!」と思えるような取り組みをこれからも考えていきたい。